

第30回 富士山への手紙・絵コンクール受賞作品

手紙部門 最優秀賞

小学生低学年の部
 富士宮市立富士見小学校 近藤遼太楼さん
 いつも、あおくておおきくてかっこいいね。ぼくは、なつのはじさんがいちばんかっこいいから、いちばんすきだよ。はちがつのおつひに、くものぼうしをかぶっていたね。あついで、おともだちのくもが、ふじさんのあたまを、ねっちょうしょうからまもっていたね。おとうとといっしょにえんぶんちゃあじをじゅめんににおいておいたけど、なめてくれたかな。あとでみたらとけていたけど、ふくろは、あいていなかったからわからないよ。

小学生高学年の部
 富士宮市立富士根南小学校 稲葉香歩さん
 富士山、あのね。最近、ばあばどうまく話せないんだ。小さいころは、毎日、ばあばのせなかに乗って、富士山の歌を二人で歌っていたのに。わたしがばあばのせなかに乗れなくなったころから、だんだんうまく話せなくなったんだ。ばあばがわたしに注意すると、イライラしちゃうんだ。本当は、ばあばのこと大好きなのにね。ばあばのせなかも富士山みたいに大きかったら、今もばあばのせなかに乗って仲良くできていたのかな。もうすぐ、わたしの方がばあばより大きくなるよ。富士山みたいに大きくなって、今度は、わたしがばあばをせなかに乗せてあげよう。それで、もう一度二人で富士山の歌を歌うから聞いていてね。

中学生の部
 静岡県富士見中学校 岡本愛生さん
 昨年、母が病氣治療の為、二ヶ月近く入院した。入院して三週間程たったある日、突然「今、ハ合目！」と連絡が来た。「何が？」と返信するとすぐ返事が来た。病室から見える富士を見ていううち、治療の進み具合を富士登山に例えることにした。富士山が好きなら母ならはの良アイデアだと思った。父から辛い治療と聞き心配したが、登山を頑張る母の姿が重なり大丈夫と信じられた。以前、一緒に富士山に登った時、母は滑って転んだ。でも大きな笑い声を山に響かせ、立ち上がって歩き出したことを思い出した。面会制限があり、入院中、母には一度も会えなかった。その分、母も見ている富士山を見て、頑張れと応援した。そしてついに登頂成功！退院の日、「ヤッホー」と言わばかりの明るくて大きな母の「たたいま」の声。
 今年の夏、家族で富士山に登った。母の体力を考え、宝永山で日の出を拝んだ。富士山母の闘病と一緒に支えてくれてありがとう。

高校生・成人の部
 東京都 国分寺市 樋浦憲次さん
 新潟の片田舎の中学の修学旅行は東京、江の島、箱根の三泊。箱根芦の湖で観光バスガイドさんが「ここから富士山が見えるのですが、今日はあいにく雲でみえません。」と。幼の富士山であった。1961年秋のこと。5年後、富士山清掃登山に参加。山好き約50人が8月中旬6合目に集結。4日間で頂上迄ゴミ掃除だ。気温は低いのに汗だらけ。必死に缶やボトルを拾い集めた。目的が同じ同志、すぐ親しくなった。深夜彼らと満天の星々をただ驚き、飽きずに見つめた。すると何と東の空の目の高さにオリオン座が見えるではないか！非常に驚いた。星に詳しい仲間が運良くいて、解説してくれた。「ここは標高が高いので、夏なのに冬の星座が深夜に限って見える」と。日本広しといえども、夏に、冬の代表的な星座オリオンを自分の肉眼で見た人は、何人いるだろうか。一生忘れられない感動は、日本一の富士山の高さがもたらしてくれたものだった。

絵部門 最優秀賞



幼児の部 「ゆきがふってきたよ」 アトリエENDO 里田煌太さん
小学生低学年の部 「富士山ろく 茶畑のおばちゃんたち」 だれでもアーティストクラブ 永井陽基さん
小学生高学年の部 「赤く染まる富士」 富士市立伝法小学校 立林桃亜さん
中学生の部 「星の海」 富士宮市立富士根北中学校 渡邊咲沙さん
高校生・成人の部 「山から来るもの」 富士宮市 都築 修さん

第30回 富士山への手紙・絵コンクール受賞作品 選評

手紙部門 審査員長 村松友視

激戦区である「小学生低学年の部」を制したのは近藤遼太楼君(一年生)の作品。八月の暑い日に雲の帽子をかぶる富士山のけしきから、「おともだちのくもがふじさんのあたまをねっちょうしょうからまもっている」と感じ取る作者が、さりげなく地面の上に置いてきた「えんぶんちゃあじ」を、富士山がなめてくれたかをあれこれ想像する。いやもう富士山への心やりがあらわれた「えんぶんちゃあじ」が最優秀賞の必殺の決め手だった。

「小学生高学年の部」最優秀賞は、いつも背中に背負ってくれたばあばとの関係についての、少女の成長とかさなる微妙な悩みが、瑞々しく浮かぶ稲葉香歩ちゃん(五年生)の作品。再び二人で歌う「富士山の歌」が立ちのぼってくるようだった。

「中学生の部」最優秀賞は、岡本愛生さん(三年生)の作品。病氣治療を頑張る母を、富士山とともに見守り励ますやさしさとともに元気すぎるとも言えるお母さんの果てしない生命力の魅力が上手に表現されている。そんなお母さんに、やさしいプレーキをかける父の存在もうっすらと透けて見えたりもする。家族愛がいくつもの色で躍動する作品だ。読み終えてから、この元気なお母さんの顔を拝みたくなったものだった。

「高校生・成人の部」は、東京都の樋浦憲次さんの作品。新潟の中学の修学旅行で東京・江の島、箱根の三泊旅行のとき、富士山との対面を楽しみにしたが曇天で果せず、五年後の富士山清掃登山が富士山との初対面となる。同行した目的を共にする同志たちと充実した時をすごしたことが想像される。その同志たちとともに目にした、夏なのに東の空に見えた、季節はずれのオリオン座が目やきついたまま、作者の思い出の中に脈々と生きている。富士山の高い高度がもたらしてくれたあり得ないはずの夏のオリオン座……投稿された太く濃く力強い筆づかいからも記憶への確信が読み取れた。

今回は、選考委員のそれぞれの「推し」が微妙にずれていて、最優秀賞を絞り出すのが難しかったが、それだけに楽しく充実感のある論戦でもあり、楽しい時間でもあった。

絵部門 副審査員長 村上雅洋

第30回の記念すべきコンクールの審査を担当させていただき、たくさん作品と出会えたことに感謝します。

出品数は1割ほど減少したものの、国内出品数は昨年並みで、出品者の富士山への変わらぬ想いを感じました。

富士山に正面から向き合った作品、さまざまな体験や季節の風物詩、行事などを題材にした作品、独自の発想で創作したり、デザイン的な表現や、コラージュを用いた作品など、テーマや表現方法など幅広い作品が集まりました。次年度以降も皆さんの富士山に対する多彩な見方、表現を期待しています。

最優秀作品について私なりの感想を述べてみます。

幼児の部 さとだこうたさん『ゆきがふってきたよ』
 雪が舞う冬の富士山頂から昇る日の出と、それを見つめる子供たちが描かれました。4人とも顔がさかさになるほど富士山を見上げ、思わずバンザイしたり、写真を撮ったりしている姿から、そのときの感動が伝わります。寒さのなか、ほのぼのした温かみも感じる作品となりました。

小学校低学年の部 ながい はるきさん『富士山ろく 茶畑のおばちゃんたち』
 五月晴れのなか、富士山の麓に広がる茶畑を背に、手摘みする三人のおばちゃんが描かれています。たくさん雪が残る富士山に見守られながら、おばちゃんたちのやる気まんまんの様子が親しみをもって表情豊かに描写されました。きっとたくさんのお茶が摘めたことなのでしょう。

小学校高学年の部 立林 桃亜さん『赤く染まる富士』
 赤富士を画面いっぱい大きく捉えました。富士山の山肌の起伏を、力強く、さまざまな色彩でちぎり絵風に塗り分け表現しています。空のピンクと富士山の茶、青の対比もきれいです。じっと見ていると山肌にさまざまな形が浮かんできました。

中学生の部 渡邊 咲沙さん『星の海』
 夜の富士登山の様子を、遠方のやや高い視点から描いた作品。ご自身の登山体験でしょうか。画面全体が青系で統一され静けさの中に程よい緊張感を感じます。富士山の山小屋や登山者の灯りと、麓の街の灯りとの対比が印象的で、灯りの下に人の営みも感じます。手前に広がる森林が画面を引き締めています。

高校生・成人の部 都築 修さん『山から来るもの』
 雪をいただく富士山と市街地を流れる神田川をモザイク風に表現しています。神田川の源流となる富士山の湧水を湛える湧玉池も見えます。この作品は、小さな紙を貼り合わせて描いた貼り絵で、富士山や川の流れなどの質感を、細部まで密度濃く表現しています。緊張感をもって根気よく制作された作者の努力に敬意を表します。

富士山に学んだこと
 富士山と共に生きること
 富士山と地域を愛すること
 そして、美しい富士山を
 いつまでも
 残しておくために

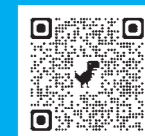
募集期間

令和8年 7月1日(水) ~ 9月7日(月)

期間内必着

作品募集

【主 催】富士山への手紙・絵コンクール実行委員会(富士宮市、富士宮市教育委員会、国土交通省富士砂防事務所、富士砂防ボランティア)
 【協 賛】一般社団法人 中部地域づくり協会、日本郵便(株)東駿河地区連絡会
 【後 援】静岡県、静岡県教育委員会、日本郵便(株)東海支社



詳細はこちら

あなたの心を富士山へ...

第31回 富士山への手紙・絵コンクール



富士山への手紙・絵コンクールは、みなさんの富士山に対する思いや願いが、美しい富士山と共に生きる、豊かな心を持った人と人とが暮らす文化的“まちづくり”の輪に大きく広がっていくことを期待し開催しています。

あなたが見た富士山、思い出の富士山、夢に描く富士山へ…

言葉や絵にのせて、思いを伝えてみませんか？

手紙部門

- 募集部門** 4つの部門に分けて募集します。
 - 小学生低学年の部 ●小学生高学年の部
 - 中学生の部 ●高校生・成人の部
- 作品規格**
 - *一人1点、未発表のものに限ります。
 - *郵便はがきまたは、応募用紙(A4サイズ)を使用してください。(400字以内)
 - *右記ウェブサイトからも応募できます。



(郵便はがきの表)

4188601	静岡県富士宮市弓沢町一五〇番地
住所	富士宮市教育委員会文化課内
氏名	富士山への手紙・絵コンクール
学校名	実行委員会事務局
学年・年齢	
年齢	
電話番号	

(郵便はがきの裏)

富士山への手紙
(400字以内)

字数が多い場合には、
審査対象外になります。

- 注意事項**
 - *郵便はがきに住所、氏名、学校名、学年、年齢、電話番号を明記してください。
 - *氏名・学校名には、ふりがなをふってください。
 - *団体(学校等)で応募する場合は、応募リストを添付し、応募リストの順番に並べてご提出ください。

応募用紙・応募リスト

応募用紙・応募リスト(団体用)は、富士宮市トップページ→文化・スポーツ→文化・芸術→文化活動→富士山への手紙・絵コンクールからダウンロードいただけます。

絵部門

- 募集部門** 5つの部門に分けて募集します。
 - 幼児の部
 - 小学生低学年の部 ●小学生高学年の部
 - 中学生の部 ●高校生・成人の部
- 作品規格**
 - *一人1点、未発表のオリジナル作品に限ります。
 - *ポスターは不可。
 - *用紙は四つ切(54.0×38.0cm)を使用してください。キャンパスの場合は、F10号(53.0×45.5cm)以下を使用してください。
 - *額縁の使用は、ご遠慮願います。
- 注意事項**
 - *作品の上下を確認し応募票を作品のうら面右下に、貼り付けてください。
 - *団体(学校等)で応募する場合は、応募リストを添付し、応募リストの順番に並べてご提出ください。

上	作品(うら)	
下		応募票

上	作品(うら)	応募票
下		

審査員

審査員長	村松友視(作家)
副審査員長	村上雅洋(画家)、富士宮市教育長、富士砂防事務所長
上席審査員	元富士宮市立小学校長、元社会教育指導員
審査員	富士宮市小・中学校教員(国語、図画、美術) 富士宮市退職校長親和会員

入賞

各部門 最優秀賞1点、優秀賞3点、
海外賞3点(絵部門のみ)、佳作20点以内

発表

11月下旬に富士宮市ウェブサイト等にて入賞者を発表する予定です。

※氏名、団体(園・学校)名、所在市区町村名、学年を掲載しますのでご承知ください。

※入賞者には(団体応募の場合には団体宛に)文書にて通知します。

表彰式・展示等

- 表彰式等** 最優秀賞、優秀賞を受賞された方は、令和9年2月23日(火・祝)に富士宮市民文化会館大ホールにて表彰式を行う予定です。
- 展示** 令和9年2月17日(水)~2月23日(火・祝)まで9時から21時30分
富士宮市民文化会館 1F 展示ギャラリー(予定)
- 冊子の発行** 入賞作品は冊子にして入賞者に贈呈いたします。

応募先・問い合わせ

〒418-8601 静岡県富士宮市弓沢町150番地 富士宮市教育委員会 文化課内
「富士山への手紙・絵コンクール実行委員会」事務局
 ☎(0544) 22-1106

作品使用について

作品の著作権は、応募締め切りから1年間主催者に帰属します。入賞作品は、富士宮市が作成する資料等に使用させていただくことがあります。(使用例:ラッピングバス、冊子の表紙等)

作品の返却

- 手紙部門** 手紙部門の作品は返却いたしません。
- 絵部門** 作品の返却を希望される方は、応募票にその旨お知らせください。
返却希望作品は、展示後から令和9年3月19日(金)までの期間内で富士宮市役所6階文化課にて返却します。(期間後の対応はできませんのでご承知ください)事前に事務局まで電話連絡をお願いします。また、郵送を希望される場合は、自費負担(着払い)となります。
※海外への返却はできません。

募集期間

期間内必着

令和8年7月1日(水) ~ 9月7日(月)

-----キ-リ-ト-リ-----
四すみをのり付けして作品のうら面右下に貼り付けてください

第31回「富士山への手紙・絵コンクール」 絵部門 応募票		※この欄は記入しないでください	
校名・園名 団体名			
ふりがな	学年	()	年
氏名	年齢	()	歳
絵のタイトル			
▼個人応募の方は御記入ください			
住所	〒		
電話番号			
部門	〈幼児の部〉 〈中学生の部〉	〈小学生低学年の部〉 〈高校生・成人の部〉	〈小学生高学年の部〉
返却希望	なし ・ 直接受け取り ・ 郵送(着払い)		